

2017年2月10日 第3188回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 谷 会長
<斉 唱> 「手に手つないで」
<ゲスト紹介> *浄土寺 住職 逸見通郎様
<会長報告> *ガバナー事務所より

- ・会長エレクト研修セミナー（PETS）開催のお知らせについて
3月14日（火）9:30～10:00 登録 10:00 点鐘
18:00～19:20 懇親会
於：藤沢商工会館ミナパーク 3F&5F 会議室
6F 多目的ホール
- ・青少年交換学生 京都／広島研修旅行
3月16日（木）～18日（土）
行き先：京都（嵐山／伏見稻荷／清水寺）
広島（平和記念資料館／厳島神社）

- <幹事報告> *「ロータリーの友」事務所より
2017～2018年度版ロータリー手帳の申込について
*ガバナー月信 No. 8
*例会終了後第8回理事役員会開催（302研修室）

- <出席報告> *出席委員会 澤田委員長より2月10日の出席率

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
111名	94名	66名	28名	4名	74.47%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 浄土寺逸見道郎様、本日卓話宜しく願いいたします。
- ・高橋 仁、波島、植田、井 莉、前川、田 邊、澤田、上原 公、鈴木 颯、岩 瀬、曾 我、秋 本、長 尾、ENORA、長 尾、新倉 健、根 岸、大 竹、福 西、藤 村、高橋 倫、江 沢、石 田、齋藤 真 各会員
浄土寺 住職逸見道郎様、本日の卓話楽しみにしております。
- ・渡辺 尚、勝 間、清 水 各会員 本日は逸見住職のお話を楽しみにしております。2020年大河ドラマ「三浦按針」に向けて、皆で盛り上がりましょう。
- ・鈴木 颯、八 木 両会員 誕生月祝いとして
- ・明 野、北 村、高橋 倫 各会員 入会月祝いとして
- ・1番テーブル若麻績マスター、瀬戸サブマスター 2月3日甲羅本店にて1番テーブルミーティングを開催いたしました。三役より谷会長にお越しいたいただき、楽しく過ごさせていただきました。帰りには小沢会員より「チーズケーキ」のお土産をいただきありがとうございました。
- ・八 木、高橋 倫、鈴木 颯 各会員 2月3日甲羅本店にて1番テーブルミーティングを行いました。若麻績マスター、瀬戸サブマスターお疲れ様でした。小沢会員、おいしいお食事にお土産のチーズケーキありがとうございました。
- ・5番テーブル加藤マスター、軍司サブマスター 2月3日（金）5番テーブルミーティングでは、物井 SAAに出席いただき、軍司サブマスターの計らいで、ワインのソムリエ付のサービスで、美味しい会となりました。関係者の皆様本当にありがとうございました。
- ・物 井、徳 永、池 上 各会員 2月3日、5番テーブルミーティングが開催されました。ワイン談義に花が咲き楽しい会となりました。加藤元章マスター、軍司サブマスターお世話になりました。

- ・6番テーブル吉田マスター 2月3日大黒屋にて6番テーブルミーティングを行いました。山下幹事をはじめ、竹田サブマスターにご参加いただきました。メンバーの皆様ありがとうございました。
- ・上林、高橋(働)、勝見、外崎 各会員 2月3日大黒屋にて6番テーブルミーティングを行いました。吉田マスター、竹田サブマスター大変お世話になりました。吉田マスター美味しい日本酒の差し入れありがとうございました。
- ・明野 会員 6番テーブルミーティング欠席、申し訳ありませんでした。
- ・高橋(仁) 会員 久しぶりに出席させていただきます。有難う存じました。
- ・高橋(仁) 会員 御来店戴いた方々有難う存じました。
- ・鈴木(健) 会員 明日2月11日、調理製菓作品展を行います。入場自由です。お気軽にお越しください。
- ・渡辺(倫)、加藤(元)、高橋(働)、上林 各会員 鈴木康仁会員、お帰りなさい。
- ・山・ 会員 先日、長堀先生に大変お世話に成りました。有難うございました。
- ・加藤(働) 会員 物井さん、先週の懐かしい歌のCD、車で聴いています。ありがとうございました。
- ・物井 会員 Congratulations Patriots! It's a miracle game!
- ・若麻績、瀬戸、福西 各会員 写真をいただいて

<卓 話> 『三浦按針を通してみる今日の日本人』

浄土寺 住職 逸見 通郎 様

本日はお手元に「数奇な歴史を経た浄土寺の梵鐘」などの資料を用意してまいりました。実は私どもの寺の梵鐘は、終戦間際の昭和20年に日本海軍による供出の命令を受け、軍へ供出しましたが、その鐘が奇しくもアメリカのジョージア州アトランタの公園にあったところ、現地のロータリークラブの方に発見され、是非元のお寺に返さなければならないという展開になったそうです。不思議な事にジョージア州アトランタの海軍と第7艦隊横須賀基地のつながりがございまして、鐘は軍艦で横須賀に帰って来ました。そして横須賀ロータリークラブの皆様方のお計らいにより寺に鐘が返ってきたというのがお手元の写真です。そして次の写真に当時の長野横須賀市長をはじめ、日米のロータリークラブ会長らが出席



して、友好の式典が寺で昭和36年の日米修好100年記念の中で盛大に行われた模様が載っています。この鐘は寺の門前に置いてあるのですが、昨今よくお寺にお見えになります釣鐘のマニアといひますか研究家の方によると、この鐘は非常に珍しいものだそうです。それは作者が神田在住の鋳物師である木村将監藤原安成の作であるという事です。この方は東京の池上本門寺ですとか文京区の護国寺など大きなお寺の鐘しか作っていない方で、その方の作品が横須賀市の逸見にあるというのは非常に珍しいとの事でありました。この鐘の寄進者の中に江戸の大伝馬町に住んでいた西宮七兵衛の名が大きく記されており、三浦按針の妻の雪は大伝馬町の馬込勘解由の娘と伝えられていることから、その関係についてもこれから研究の対象になるのだろうというご指摘を頂きました。いずれにしても軍に供出した鐘が今日こうして色々な資料になっている事が申すまでもなくロータリーの皆様のお陰だと思っておりますし、過去のロータリーの方のご功績を賛嘆させて頂きたいと思ひます。

さて、一昨日NHKに横須賀市長をはじめ30人ほどで行って参りました。それが昨日の神奈川新聞に掲載されましたので本日持って参りました。この陳情は3回目であります。何とか三浦按針と徳川家康を題材に大河ドラマを作成できないか、市長をはじめ多くの市民の方々の要請を受けて陳情に行って参りました。来年の大河ドラマは西郷隆盛を題材にする事が決まっております、また再来年がオリンピックを題材にして近現代を描く内容で、監督が宮藤官九郎との事があります。そして2020年の題材がまだ決まっていない事か

ら、それに向けてNHKではかなり具体的に検討に入ったとの回答がございました。三浦按針と徳川家康については、非常に大きな題材だろうと思います。

私は2008年にロンドンに講演に行きましたが、当時はバブルが崩壊して経済が低迷していた時期であります。日本全体に元気が無かった頃、丁度横須賀市では2007年が市制100年という事で開国の街よこすかをアピールすべく、横須賀市の皆様が色々な企画をされておりました。横須賀美術館を作ったり、色々な活性化の切り口を模索していたと記憶しております。開国の街といいますと、やはりペリーの浦賀を中心としまして、その時代からスタートする訳です。私どもの寺は三浦按針の菩提寺でございますので、多くの研究者の方々、特に東京大学の史料編纂所の先生方がよくお見えになって、先代の住職と意見の交換を行っておりました。特にアダムスがいた頃の横須賀の時代背景を私も聞いていたものですから、もっと掘り下げて江戸創成期の1600年の頃に遡った方がよりダイナミックに横須賀が理解できるのではないかと思います。

そうしたところ、2008年が日英国交150周年の節目にあたる年という中で、当時の横須賀市長から講演者を探しているのでもロンドンへ行ってくれないかという依頼があり、2008年の秋に10日間ほどの日程で行って参りました。大して人は集まらないだろうと思いましたが、200人くらい集まっており、それが全て研究者やプレスの方々でした。その中で質問を沢山頂きました。それをいくつか紹介します。ウィリアム・アダムスはシェークスピアと同じ1564年に生まれ、関が原の戦いのあった1600年に日本にきました。1つ目の質問は、その時に徳川家康がイギリスの船にあった武器・火器をもって関が原の戦いに勝利したのかどうかという事です。つまりこれまで大河ドラマで描かれた徳川家康では、外国の影響を受けて天下を取ったという事は全く表明されていないが、私がどう考えているかという内容です。私はこの件については多少資料を持ち読んでおりましたので、具体的にはウィリアム・アダムス抜きでは徳川家康は関が原の戦いで勝てなかったと申し上げました。日本においては、こういう情報は共有しておりません。例えば徳川家康はリーフデ号に乗っていた事実があります。リーフデ号はウィリアム・アダムスが1600年に大分県の臼杵市に着いた時に乗っていた船の事です。その当時リーフデ号には武器・火器を積んでおり、中には西洋の甲冑がありました。一説には徳川家康がこの甲冑を着て戦場に出たという記録もありますが、その事が日本の歴史の表舞台には出て来ないのは何故なのかという意見がありました。ほかにはカルバリン砲という銃身の長い大砲がありました。ウィリアム・アダムスは幾何学を勉強しており、また砲術士であったという記録がございますので、その事によって、最終的に大阪夏の陣で徳川家康が豊臣家を滅ぼし、天下を取るきっかけとなった訳です。つまりウィリアム・アダムスがいなければ天下は取れなかったという事です。その事についてNHKに対しては、今まで描かれてきた山岡荘八とは違った、世界との関わりの中で徳川家康が江戸を創生して言ったという切り口が、非常に大事なポイントだという事を皆さんと共有したいと申し上げました。2つ目の質問は、日本はイギリスと同じくらいの総面積であるにも関わらず、なぜ海外へ出て行かなかったのかという事です。私のイメージするイギリスと言うと、大航海時代で世界を制覇した大英帝国という印象が強く、大英帝国の前に西ローマ帝国、東ローマ帝国、オスマントルコの非常に宗教的な思想があった中において、スペイン・ポルトガルという強大な海洋国家が存在し、アルマダ海戦に勝ってやっとのことでイギリスが世界へ出て行く事が出来たという事実がどうしても頭の中から欠落してしまいます。アダムス自身はアルマダ海戦で補給艦の船員をしていました。不思議な縁で、そのアダムスがアルマダ海戦でスペインを凌駕し、大航海時代の切り口を作り、1600年に大分県の臼杵市に着いて徳川家康に寵愛を受

けるという大きな文脈は、大河ドラマにぴったりの素材であるという事を頂いた質問から展開してご説明させて頂きました。そして3つ目の質問ですが、イギリスは非常に日本の文化の研究が進んでいます。夏目漱石の研究をされている講演に参加した学者の先生がおっしゃるには夏目漱石の「草枕」の中に「兎角、人の世は生きにくい、兎角、世間は生きにくい」という一文がありますが、夏目漱石は日本のどこで仏教を勉強したのか、貴方はお坊さんだから説明できるだろうというものでした。兎角とは正式には「兎角亀毛」と言いまして、いずれも実際には見た事が無いものを表しています。中国の仏教解釈では珍しいものに出会う事は尊いという事を意味しています。こうした元々何も無いものを求めるという事は、まさに迷いであり、夏目漱石が仏教を勉強した証拠であるというのが質問の趣旨でありました。夏目漱石は1902年にロンドンに留学した時に、自分が社会とどの様に関わっているかという事を考え、胃潰瘍になるくらい自己を問い詰め苦悩したそうです。その事が草枕の中に表現されています。鎌倉の円覚寺の山門のところで、主人公が仏門に入るかそれとも社会の中で苦悩すべきかという場面で漱石自身が禅の師匠である釈宗演に出会う場面を表現しています。後でその先生の質問が、個人と社会は現実にはかなり違うという概念が無い日本はどんなんだという問いかけであった事に気づき、非常に厳しい質問であったと思っております。さて、アダムスが1600年に大分県の臼杵市に着いた時に、徳川家康はアダムスを重要なキーパーソンとしておさえたそうです。1600年以前には日本にイエズス会の人間が非常にたくさん入ってきており、ウィリアム・アダムスを殺せとさかんに主張していました。しかし、徳川家康はとにかく話を聞こうという事で、大分から大阪の堺まで船を曳航してきてアダムスと謁見をしたのです。この時のアダムスのもたらした情報が、非常に信頼に足るものだという事で、個人的に寵愛を受けた訳であります。先般、NHKに陳情に行った際に大分県の臼杵市長が、「臼杵の人々はアダムスが海賊かどうか分からない外国人であったが、のどが渇いているアダムスの船員に水を与え、命を助けた。これがおもてなしの原点だ。我々のおもてなしという言葉はまず命を助ける事、敵味方を越えて命を大切にす精神が大分県には脈々と受け継がれているのだ」とおっしゃっていました。そうした日本の受入態勢と徳川家康の人間力により、アダムスのステータスは上がり、ステータスが上がれば上がるほど、今度はイギリスの高級官僚が日本にやって来て、徳川家康の寵愛を受けるアダムスを見て驚く訳です。そのアダムスが、日本で寵愛を受けて手に入れた場所が相州三浦郡逸見であり、ここに250石の領地を拝領しました。外国人で初めて日本の領地を統治したのは、この横須賀の逸見となる訳です。そして当時の英国商館長の日記の中には、アダムスが、逸見でワインを造らせてパンを焼いて牛肉を食べていたという記録もあります。まぎれもなく民間でワインを造らせてパンを食べたのは横須賀が初めてだと私は思っております。こうした記録は歴史の表舞台には出てきませんが、今日非常にグローバル化の中の時代評価において、改めて大きな素材になるという認識をNHKと共有させて頂きたいと思えました。お手元の資料に神奈川新聞の「日本橋に足跡濃く」という記事があります。これは横須賀市の依頼で私が2年間に渡り連続25回書かせて頂いたものです。教育委員会と連携して、横須賀市の小中学生に三浦按針について浸透させようという事で、分かりやすく書かせて頂きました。本来、私は三浦按針の専門家ではないのですが、不思議な事に按針の宣伝部長になってしまったのですけれども、この資料の内容はいかに横須賀が江戸に関係しているか、横須賀無くして江戸は無いという内容で書いたものです。その大きなポイントは、江戸城が築城された1600年以降、人口が増加して食料の供給の必要が出てきた事にあります。食料である魚の供給源が江戸湾になるのですが、そのほとんどが横須賀から金沢八景に集中していました。ですから、当時の江戸の食糧供給は横須賀が担っていたという事を私たちは自信を持ってアピールすればいいのではないかと感じています。そして、資料の右側には打敷という布の写真がありますが、この打敷は江戸の按針町から寄進されたものであります。その江戸の按針町から按針没後220年が経った後、昭和8年まで私どもの寺に莫大な寄付をして頂きました。何故私どもの寺に江戸の按針町から寄進をするのかというと、当時江戸では魚を売る権利は非常に限られておりました。その権利を按針町にもたらしたのが三浦按針であり、按針抜きに江戸按針町、日本橋の繁栄は無かったという事が理由としてあります。私は横須賀に骨を埋めるつもりですので、何とか按針を通して、また大河ドラマで力を合わせて横須賀を活性化し、横須賀の方々をプライドを持ち、郷土に誇りを持って生きていけるきっかけになれば大変うれしい事だと思います。こうした場を頂きました事を改めて感謝を申し上げ、深く御礼を申し上げます。

<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 吉田 啓司